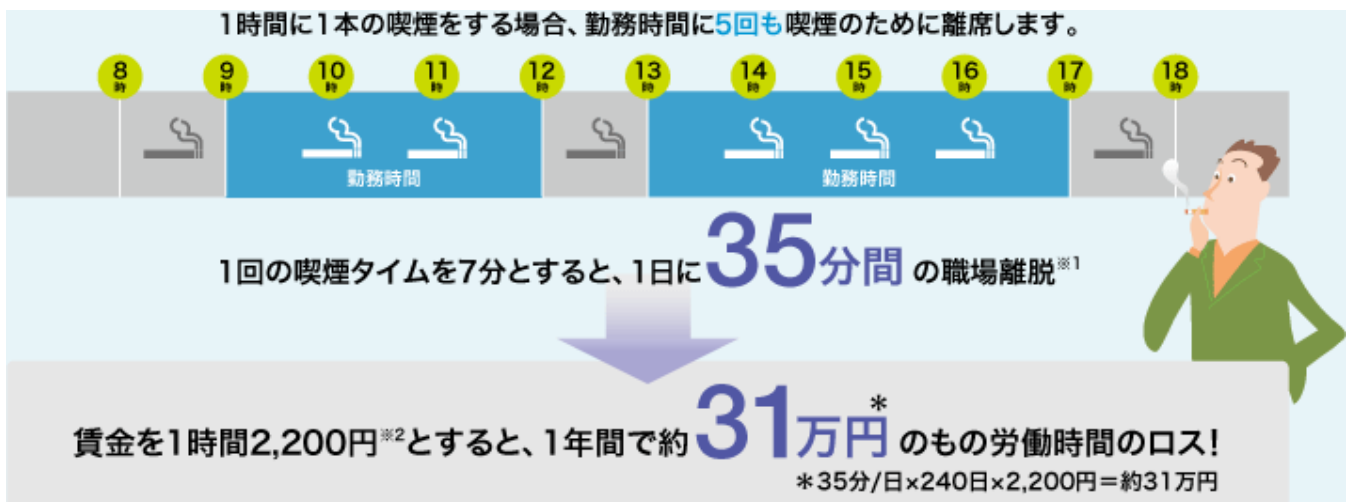


# 週刊 タバコの正体

現在皆さんは高校生ですが何十年か後には、もしかすると会社の社長になっているかもしれません。社長ではなくても会社を経営する立場になっている可能性は十分にあります。今回は、自分がそんな経営者になったとして、タバコについて考えて見て下さい。

従業員を何人も雇って経営を続けるのは簡単なことではありません。給料や様々な経費を支払ったうえで利益をあげなければいけませんからね。ところが、その従業員に喫煙者が大勢いると下の図のような労働時間のロスを覚悟しなければなりません。



※1 厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）分担研究報告書 職場における効果的な禁煙支援法の開発と普及のための制度に関する研究：平成18年度 [L20091111076]  
 ※2 独立行政法人 統計センター：平成21年賃金構造基本統計調査（一般労働産業大分類）：2010 [L20101111008] より作成      ファイザー「職場の喫煙対策」から

この例のように喫煙者1人で31万円ものロスが発生するわけですから、喫煙者を10人雇うと310万円も失うこととなります。年間310万円もタバコの煙に費やされていると考えれば、経営者としてはとてもショックなのではないでしょうか。こんな感覚を持てば、もしあなたが今から従業員を採用するとしても、あえてタバコを吸う人を雇う気にはなれないでしょう。

じつは、昨今の経営者たちはこの事に敏感になってきています。実際に「喫煙者は採用しません」と宣言している企業や、勤務時間中の喫煙を一切禁止しているところもありますからね。また、喫煙習慣のある従業員が禁煙すれば報奨金を支給するなど積極的に禁煙を励行する制度を採用している企業も沢山あります。

こんな世の中の傾向を知らずに、ちょっとした好奇心からタバコを吸い始めてしまうと将来大きな後悔をすることになるでしょう。しかし、タバコについて賢くなっている君たちには「そんな心配はいらない」ですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久